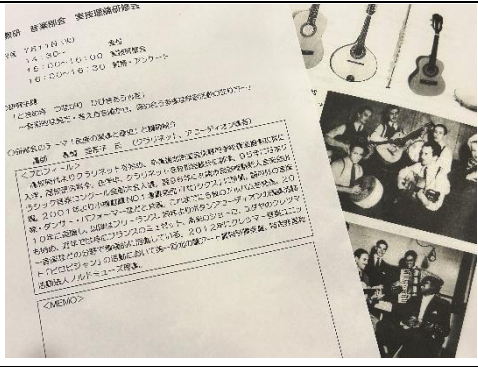





# 音楽教育 実技・理論 研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>「豊かな感性に ときめく心を ～互いに学び合い、高め合う多様な学習活動の在り方～</p>	
<p>日時</p>	<p>令和 5年 7月 11日(火)</p>	
<p>会場</p>	<p>江別市立中央小学校</p>	
<p>講師</p>	<p>長崎 亜希子 氏(クラリネット、アコーディオン奏者)</p>	
<p>参加者</p>	<p>28名</p>	
<p>研修会 の 様子</p>		<p>今回の講座は、「民族音楽」をテーマに、クラリネットとアコーディオン、その周辺の音楽と歴史についてお話をいただきながら演奏披露の場もあるという内容でした。 歴史だけではなく、楽器の構造などもお話していただき、普段中々触れることのない部分について学ぶことができました。 音楽を学習する上で、様々な視点からアプローチすることで、指導に説得力が増すということを改めて感じる時間となりました。</p>
		<p>講座は、お話よりも演奏をされる時間が多かったのですが、講師の方の素敵な演奏に参加者は惹き込まれている様子でした。プロの方が演奏することでその楽器が本来持つ音色を堪能することができ、改めて生の音楽の良さであったり、音楽の魅力だったりを感じることができました。</p>
		<p>参加者の声からは、「歴史を知ると音楽に説得力が出るというのは納得しました。アコーディオンに限らずいろいろな楽器に、事柄に当てはまることと思いました。」「新しい視点で色々な音楽を紹介することの大切さを学ぶことができました。」など前向きな声が聞かれました。</p>
		<p>今回の研修は、民族音楽というジャンルで歴史や楽器について詳しくお話していただいたことを通し、現場でもその部分を大切にしながら教材研究に努め授業に生かしたいと感化させられる内容でした。何より講師の方の演奏が素晴らしく、音楽部会のテーマ「豊かな感性に ときめく心を」育む上で、教師側も生徒の心にときめきを与えられるようなアプローチをできる力を有するために、日々研鑽をつまなければと意欲をもつことができ、概ね有意義な時間となりました。</p>